平成８年度

埋蔵文化財緊急発掘調査概報

蔵人遺跡

吹田城跡推定地

垂水遺跡

高浜遺跡

高畑遺跡

１９９７年３月

吹田市教育委員会

序

吹田市におきましては、昭和49年度国庫補助事業の埋蔵文化財発掘調査以来、年々増加する開発行為に伴い、発掘調査件数も増加の一途をたどっています。

平成８年度におきましては、国庫補助事業として４件の発掘調査を実施しました。その内、高畑遺跡での発掘調査は、住宅の建築工事中に発見されたことを契機としており、建築工事を一時中断して、発掘調査を実施する結果となりました。これは、高畑遺跡だけに限られたことではありませんが、開発行為に伴う発掘調査の実施にあたっては、その事業者とそれに関わる実に多くの方々のご理解を得ずにしては、困難なものといえ、今回すべての発掘調査におきまして、ご協力いただきました皆様方には深く感謝いたします。

また、市民の皆様におかれましても、発掘調査をはじめとする本市の文化財保護行政に対し、今後ともより深きご理解とご協力頂けますようよろしくお願い申し上げます。

平成９年３月

吹田市教育委員会

教育長　能　智　　勝

例　　言

1．本書は平成８年度国庫補助事業として実施した、高浜遺跡、垂水遺跡、高畑遺跡の緊急発掘調査をまとめたものである。また、平成７年度に国庫補助事業として実施した、蔵人遺跡、吹田城跡推定地、垂水遺跡の発掘調査についても併せて報告する。

2．発掘調査地点は次のとおりである。

(平成７年度)

蔵人遺跡	吹田市江坂町２－495－１
吹田城跡推定地	吹田市高城町1376－４、1356－２
垂水遺跡	吹田町垂水町１丁目747－６

(平成８年度)

高浜遺跡	吹田市高浜町5580
垂水遺跡	吹田市垂水町１丁目714－２
高畑遺跡	吹田市昭和町1452－６

3．発掘資料の整理作業は、吹田市岸部北４丁目10番１号、吹田市立博物館内資料整理室において実施した。

4．本文の執筆は、第１、３、４、６章　賀納章雄、第２、５章　西本安秀および賀納が行った。

5．図中の方位は磁北を示し、標高はT.P.（東京湾標準潮位）を示す。

6．発掘調査において、梶山健治、中川方久、泉　一生、尾崎聖一、中山孝彦、今大路照平氏をはじめ、多くの方々の協力を得ました。記して謝意を表します。

発掘調査参加者名簿

調査主体　吹田市教育委員会

調査指導　大阪府教育委員会文化財保護課

調査担当　吹田市教育委員会吹田市立博物館文化財保護係　西本安秀・賀納章雄

目　　次

第１章　平成８年度発掘調査の契機……１
第２章　蔵人遺跡の発掘調査……２
第３章　吹田城跡推定地の発掘調査……４
第４章　垂水遺跡の発掘調査……５
第５章　高浜遺跡の発掘調査……７
第６章　高畑遺跡の発掘調査……８

挿　図　目　次

第１図　発掘調査地点……１
第２図　蔵人遺跡発掘調査地周辺図……２
第３図　調査区平面図……２
第４図　調査区土層断面図……３
第５図　Ｔ１遺構平面図……３
第６図　吹田城跡推定地発掘調査地周辺図　…４
第７図　調査区平面図……４
第８図　調査区土層断面図……４
第９図　垂水遺跡調査地周辺図……５
第10図　平成７年度調査区平面図……５
第11図　平成７年度調査区土層断面図……５
第12図　平成８年度調査区平面図……６
第13図　平成８年度調査区土層断面図……６
第14図　高浜遺跡調査地周辺図……７
第15図　調査区平面図……７
第16図　調査区土層断面図……７
第17図　高畑遺跡調査地周辺図……８
第18図　調査区平面図……８
第19図　調査区土層断面図……９
第20図　遺構平面図……９
第21図　遺物実測図……10

図　版　目　次

図版一　　蔵　人　遺　跡
図版二　　吹田城跡推定地
図版三　　垂　水　遺　跡
図版四　　高　浜　遺　跡
図版五　　高　畑　遺　跡　１
図版六　　高　畑　遺　跡　２

報告書抄録

ふりがな	へいせい８ねんどまいぞうぶんかざいきんきゅうはっくつちょうさがいほう
書名	平成８年度埋蔵文化財緊急発掘調査概報
副書名	蔵人遺跡　吹田城跡推定地　垂水遺跡　高浜遺跡　高畑遺跡
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編集者名	西本安秀　賀納章雄
編集機関	吹田市教育委員会
所在地	〒564 大阪府吹田市泉町１丁目３番４０号　　TEL(06)384－1231
発行年月日	西暦　1996年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積㎡	調査原因
蔵人遺跡	吹田市江坂町2-495-1	27205	85	34°45′38″	135°29′40″	19960229・19960301	15	建物の建築
吹田城跡推定地	吹田市高浜町1376-4他	27205	101	34°45′58″	135°31′58″	19960304	4	建物の建築
垂水遺跡１	吹田市垂水町1-747-6	27205	86	34°45′44″	135°30′25″	19960318	2	建物の建築
垂水遺跡２	吹田市垂水町1-714-2	27205	86	34°45′46″	135°30′27″	19960522	6	建物の建築
高浜遺跡	吹田市高浜町5580	27205	100	34°45′21″	135°31′46″	19960412	3	建物の建築
高畑遺跡	吹田市昭和町1452-6	27205	134	34°45′39″	135°31′54″	19961029～19961108	132	建物の建築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
蔵人遺跡	集落遺跡	中世	土坑、ピット	土師器、瓦器	なし
吹田城跡推定地	城跡	中世	なし	なし	なし
垂水遺跡１	集落遺跡	中世 弥生時代	なし	なし	なし
垂水遺跡２	集落遺跡	中世 弥生時代	溝状の落ち込み	土師器、瓦器、弥生土器	なし
高浜遺跡	集落遺跡	中世	なし	なし	なし
高畑遺跡	集落遺跡	中世 古墳時代	掘立柱建物跡、ピット、土坑、溝	土師器、瓦器、須恵器	なし

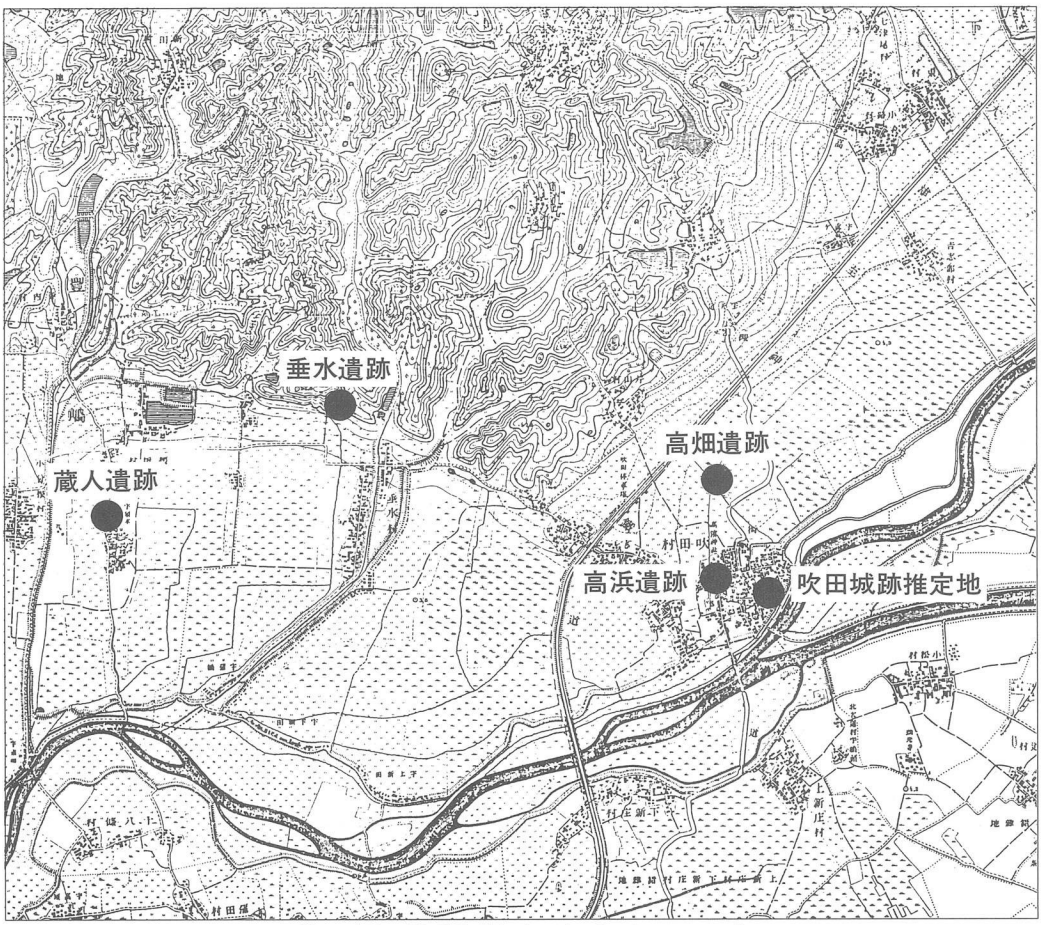
第１章　平成８年度発掘調査の契機

平成８年度は、高浜遺跡、垂水遺跡、高畑遺跡の３遺跡において発掘調査を実施した。これらの発掘調査はすべて専用住宅の建築に伴うものである。

高浜遺跡では、高浜町5580において、平成８年４月12日に遺構・遺物包蔵の有無の確認を目的として実施した。同様に包蔵状況の確認のために、垂水遺跡では、垂水町１－714－２において、平成８年５月22日に試掘調査を実施した。また、垂水遺跡では、この調査地の西隣接地である垂水町１－714－２、４の一部においても、平成９年１月８日から２月８日にかけて発掘調査を実施し、弥生時代から中世の遺構・遺物を検出したが、この報告については調査終了時期が２月に入ったため来年度に行う。

高畑遺跡は、平成８年10月22日に、昭和町1452－６において工事立会中に新らたに発見された遺跡であり、予定どおり建築工事が進められた場合、遺跡が破壊されると判断されたため、遺跡の記録保存を目的として、平成８年10月29日から11月８日にかけて住宅建築部分について調査を実施した。

なお、本概報においては、平成７年度に実施した発掘調査で、２、３月に行った蔵人遺跡（江坂町２－495－１）、吹田城跡推定地（高城町1376－４、1356－２）、垂水遺跡（垂水町１－747－６）の３件分の報告も同時に掲載する。



第１図　発掘調査地点（1:40,000）

第２章　蔵人遺跡の発掘調査

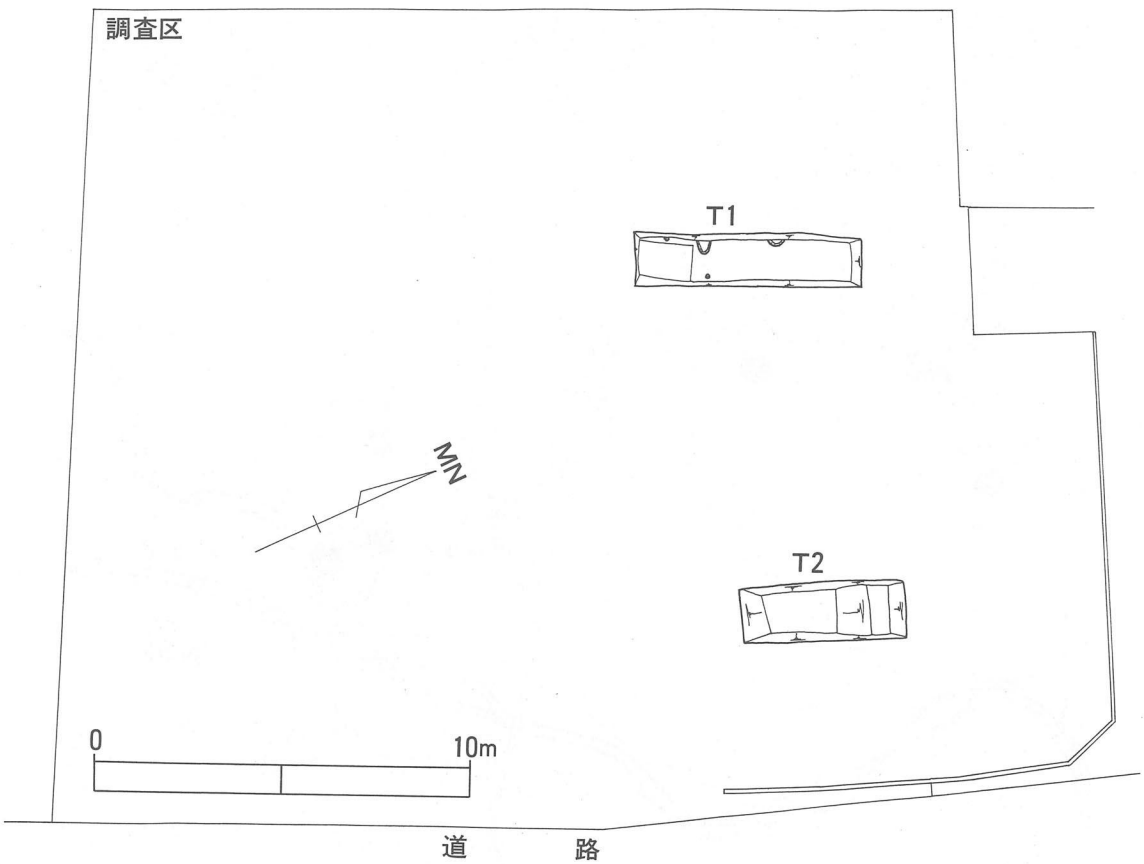
１．　調査の経過

蔵人遺跡は、弥生から室町時代にかけての複合遺跡である。今回の調査は、当遺跡内で住宅の建て替えが計画されたため、事前に遺構・遺物の包蔵状況を確認することを目的として実施したものである。調査については、平成８年２月29日と３月１日に調査トレンチを２か所設定し、重機等を用いて行った。

第２図　蔵人遺跡発掘調査地周辺図（1:5,000）

２．　調査の成果

トレンチ内の土層序は、大きく７層にわかれる。Ⅰ層：現代盛土（図中番号１層）、Ⅱ層：撹乱土（３～14層）、Ⅲ層：灰色砂質土、灰茶色砂質土



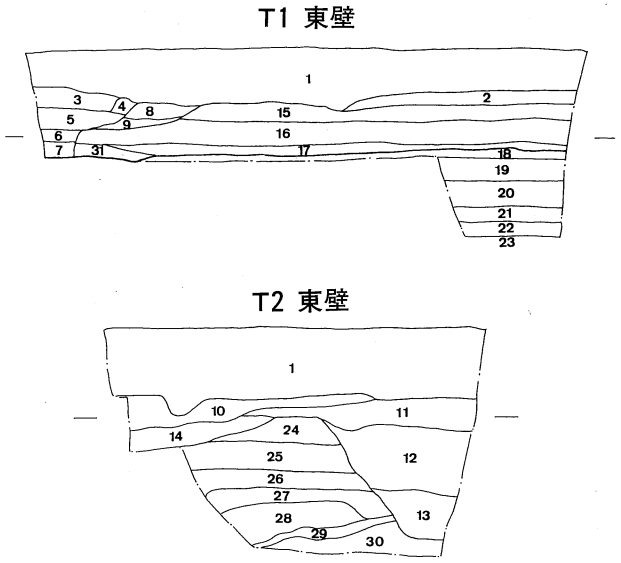
第３図　調査区平面図

(15、16層)、Ⅳ層：暗灰色土（17層)、Ⅴ層：黄灰色系砂質土（18～26層)、Ⅵ層：暗灰色系シルト（27～29層)、Ⅶ層：白～黄色砂（30層）となる。この内、Ⅲ層とⅣ層から土師器や瓦器等の中世の遺物を検出した。また、Ⅴ層をベースとして遺構も確認できた。

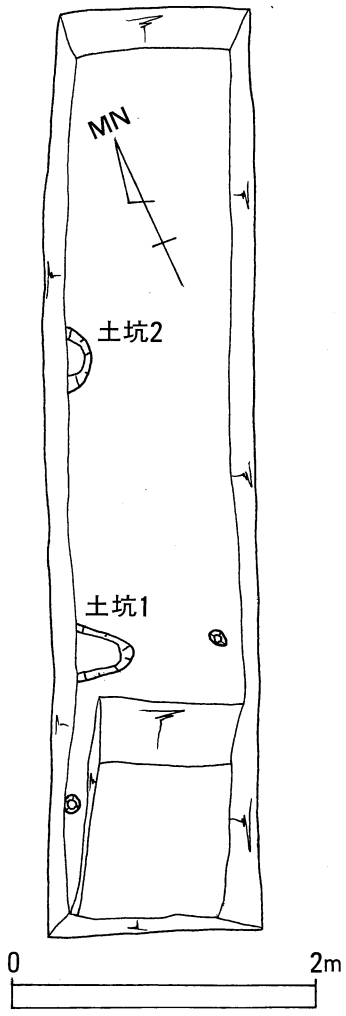
遺構については、Ｔ２では近現代の撹乱が著しく、撹乱層に中世の土師器片を少量確認したのみであり、遺構は検出できなかったが、Ｔ１内より土坑を２基、ピットを２基検出した。土坑１は楕円形を呈しており、検出長約40cm、幅約40cm、深さ約15cmを測った。土坑２は円形で、径約50cm、深さ約15cmを測る。ピットは２基とも径約10cm、深さ約15cmであった。そして、土坑２からは中世の土師器の細片が検出され、土坑１ではその埋土中に多量の炭を含んでいることを確認した。

3. まとめ

調査の結果、中世の遺物包含層を２層検出し、それに伴い遺構面を１面確認することができた。今回の調査は、遺構・遺物の包蔵状況の確認を目的とし、その調査面積は限られたものであったが、土坑やピットの検出により、当地に建物跡等の存在したことを予想させ、今後につながる結果を得たものといえる。



第 4 図　調査区土層断面図



第 5 図　Ｔ１遺構平面図

第３章　吹田城跡推定地の発掘調査

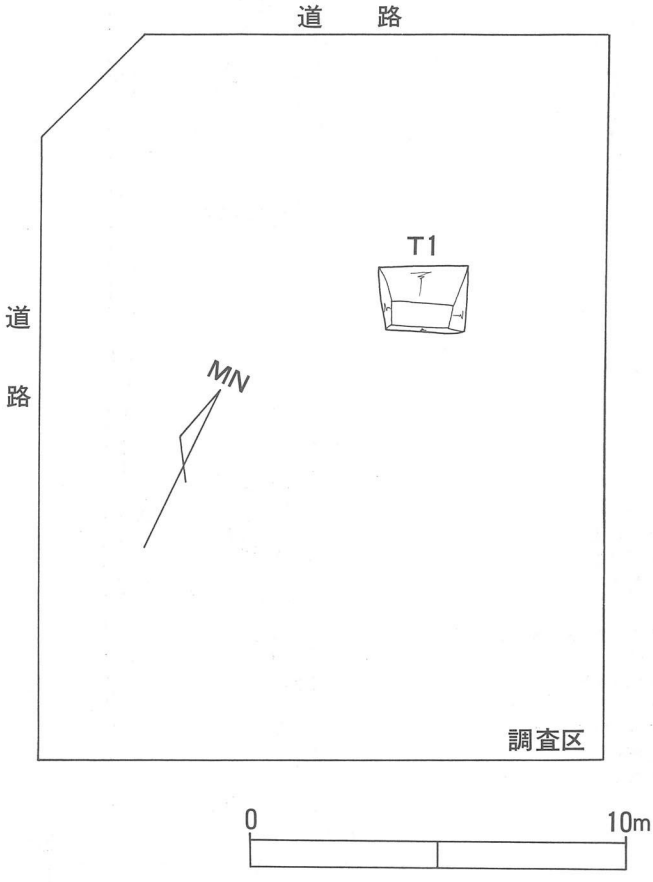
1.　調査の経過

今回の調査は専用住宅の建築に伴うもので、遺構・遺物の包含状況を確認することを目的として実施した。調査については、平成８年３月４日に調査トレンチを１か所設定し、重機を用いて実施した。

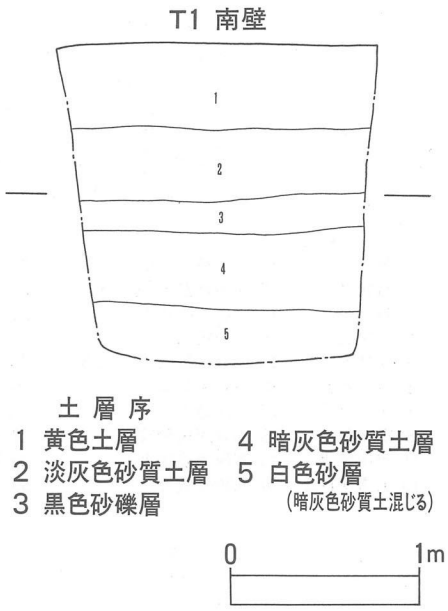
2.　調査の成果

トレンチ内の土層序は、盛土層以下、淡灰色砂質土（第２層）、黒灰色砂礫（第３層）、暗灰色砂質土（第４層）、白色砂（第５層）がほぼ水平に堆積していた。この内、第５層内から近世末以降のものと考えられる染め付け片が出土した。しかし、他に明確な遺構・遺物についてを確認することはできなかった。

第６図　吹田城跡推定地発掘調査地周辺図（1:5,000）



第７図　調査区平面図



第８図　調査区土層断面図

第４章　垂水遺跡の発掘調査

１．　調査の経過

垂水遺跡は、千里丘陵南側に位置する旧石器時代から中世期にかけての複合遺跡である。平成７年度における調査は、住宅の建築に伴う事前確認調査として実施した。調査については、平成８年３月18日に人力にて掘削を行い実施した。また、平成８年度における発掘調査は、同様に住宅建築に伴うもので、平成８年５月22日に重機を用いて実施した。

２．　調査の成果

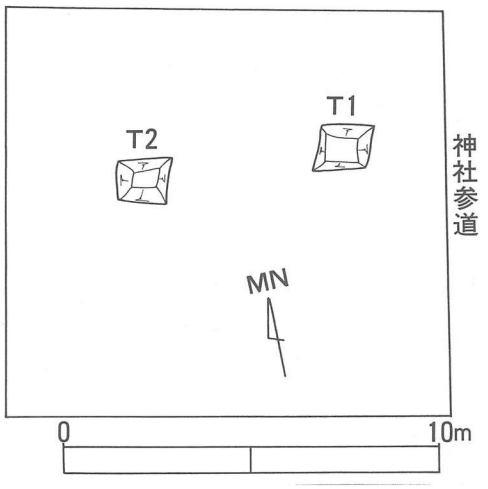
（１）平成７年度調査

調査地は、遺跡内丘陵南面の平地部に位置する。調査は、調査トレンチを２か所設定して実施した。その結果、盛土層以下、黒灰色砂質土層、暗青灰色砂質土層の堆積が認められたが、遺構・遺物については確認できなかった。

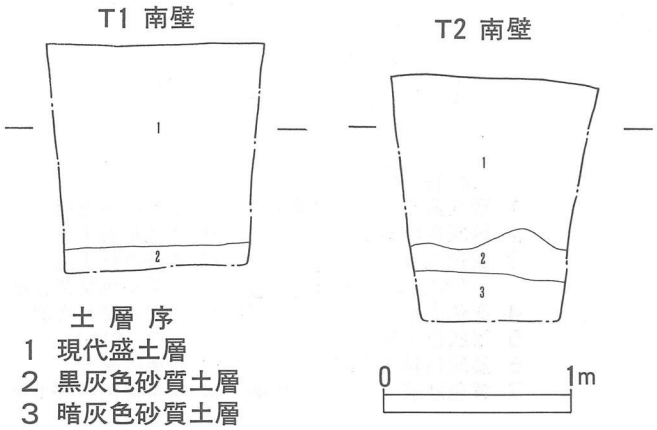
第９図　垂水遺跡調査地周辺図（1:5,000）

（２）平成８年度調査

調査地は、丘陵南側の裾部に位置する。調査は、調査トレンチを１か所設定して実施した。調査区内の土層序をみると、基本的に、現代盛土層（第Ⅰ層）、灰色土層（第Ⅱ層）、黄色砂層



第10図　平成７年度調査区平面図

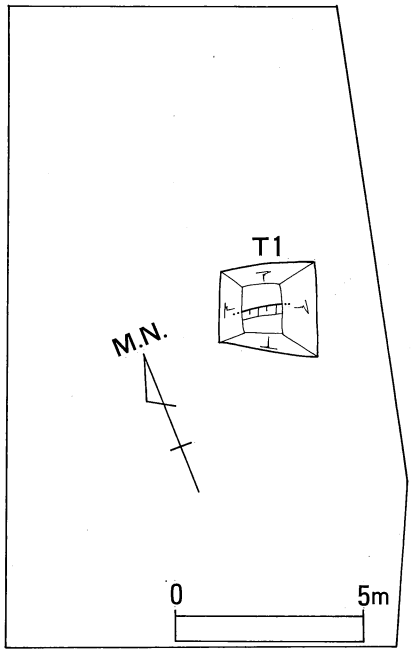


第11図　平成７年度調査区土層断面図

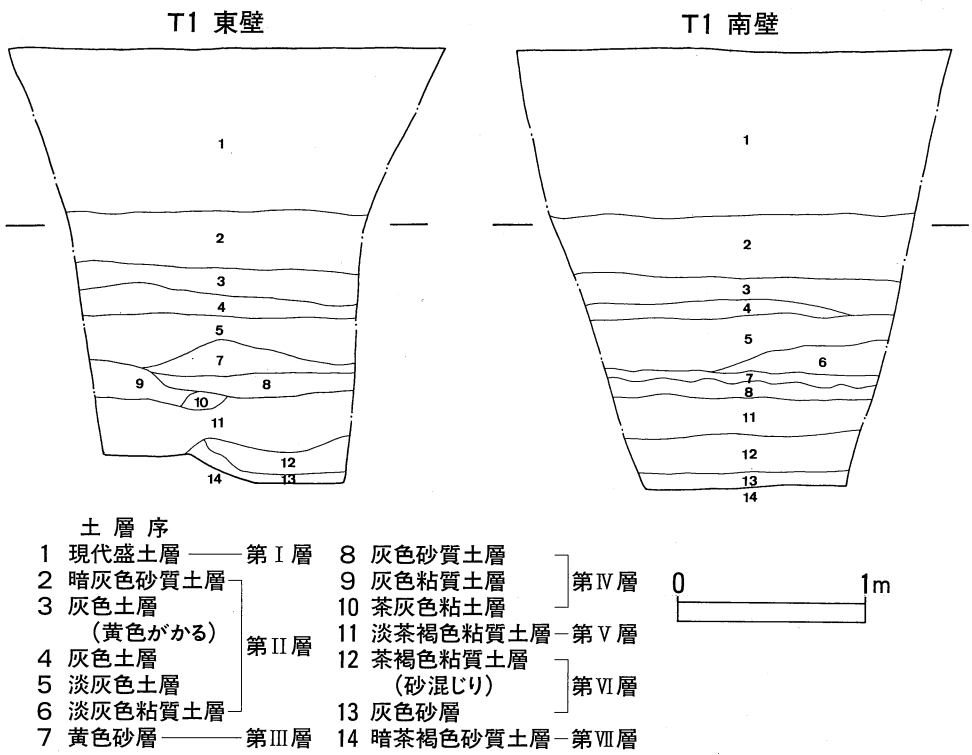
（第Ⅲ層）、灰色系砂質土層（第Ⅳ層）、淡茶褐色粘質土層（第Ⅴ層）、暗茶褐色砂質土層（第Ⅶ層）の堆積がみられた。そして、第Ⅴ層中からは、中世の土師器皿と瓦器椀の破片が検出されたが、いずれも細片のため図化できなかった。また、第Ⅶ層をベースとして溝状の落ち込み（第Ⅵ層）を１か所検出した。この落ち込みは、検出部分で幅90cm、深さ20cmを測り、落ち込み内からは、弥生土器高杯の脚部片が出土したが、これも細片のため図化できなかった。

3. まとめ

平成７年度の調査では、遺構・遺物の包蔵は確認できなかったが、平成８年度の調査において、少量ながら中世の遺物と遺構の検出に至った。今回の調査は調査区域が限られていたため、検出した遺構・遺物の性格は明確ではないが、この調査の後に、その西隣接地において発掘調査を行い、弥生時代および中世の遺構・遺物の検出に至り、今回の調査の成果もこれに繋がるものと思われる。



第 12 図　平成８年度調査区平面図



第 13 図　平成８年度調査区土層断面図

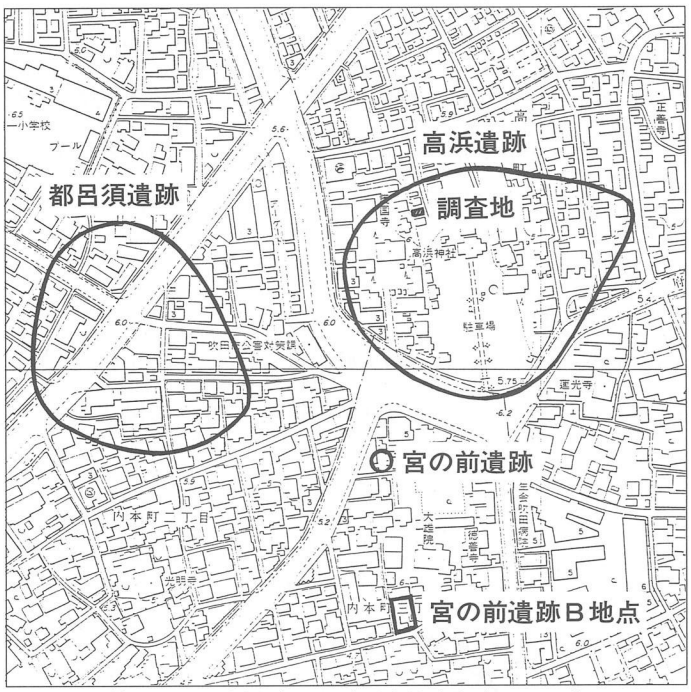
第５章　高浜遺跡の発掘調査

1．　調査の経過

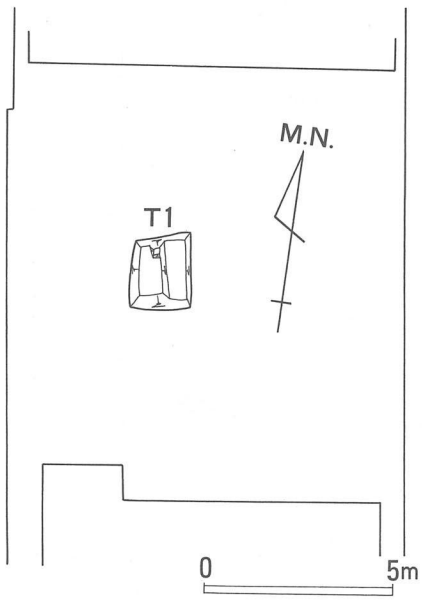
高浜遺跡は、縄文時代から中世にかけての遺跡であり、縄文海進によって形成された微高地である吹田砂堆上に位置する。今回の調査は、住宅の建築に伴う事前調査として実施し、調査にあたっては、調査トレンチを１か所設定し、人力によって掘削を行い、遺構・遺物の包蔵の有無の確認に努めた。

2．　調査の成果

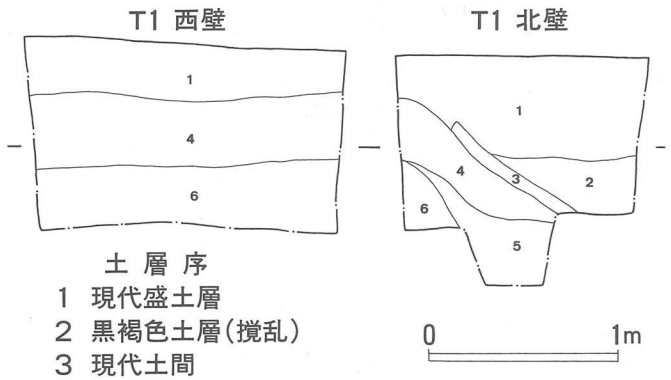
トレンチを掘削したところ、調査地はすでに大きく撹乱（近現代）を受けており、現代盛土層（第１層）以下、撹乱層（２～５層）が認められ、撹乱層のすぐ下に地山層である黄白色砂層（第６層）の堆積がみられた。そして、遺構・遺物については検出されなかった。



第 14 図　高浜遺跡調査地周辺図（1:5,000）



第 15 図　調査区平面図



土 層 序
1　現代盛土層
2　黒褐色土層（撹乱）
3　現代土間
4　灰色粘土層（撹乱）
5　灰色砂層（撹乱）
6　黄白色砂層（地山層）

第 16 図　調査区土層断面図

第６章　高畑遺跡の発掘調査

１．　調査の経過

今回の発掘調査は、工事立会に際して遺構・遺物が確認されたことによって、実施したものである。調査については、まず基礎工事のためにすでに遺構上面まで重機によって掘削されていた住宅建築予定部の東半分について行い、その後、残土を入れ替え、西側部分を調査した。

２．　調査の成果

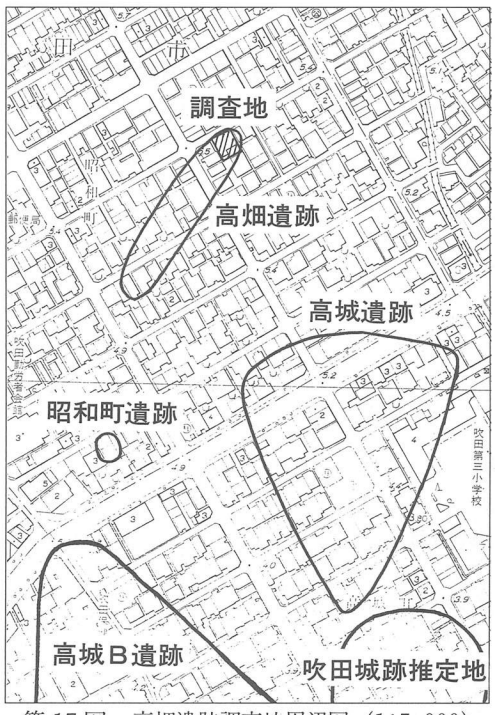
（１）基本土層序

調査区内の土層序は、現代盛土層（第１層）および旧表土層（第２層）以下、茶灰色砂質土層（第４層）、灰褐色砂質土層（第５層）、淡灰色砂質土層（第６層）、黄灰色粘土層（第７層）、濃灰色粘土層（第８層）となり、地山層として淡黄色粘土層（第９層）を確認した。明確な遺物包含層は確認できなかったが、地山層をベースとして遺構が検出された。

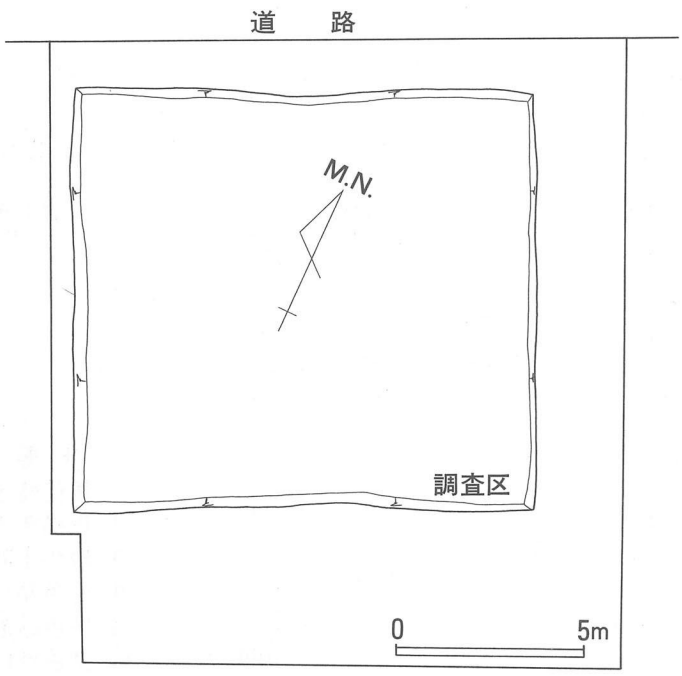
（２）遺構

１間×１間の掘立柱建物跡（ＳＢ１）を１棟確認したが、これは調査区内の東北隅において検出されたことから、梁行・桁行がさらに拡大する可能性もある。南北軸の方位はＮ－44°－Ｗを示す。

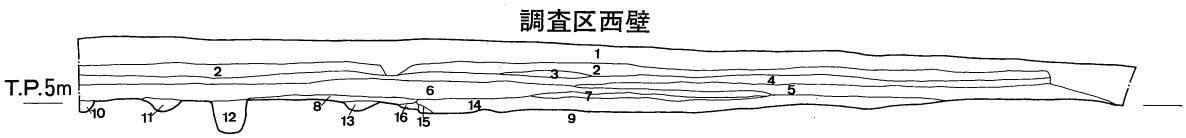
この他に多数のピット、土坑、溝などを検出したが、溝については、調査区中央付近におい



第17図　高畑遺跡調査地周辺図（1:5,000）



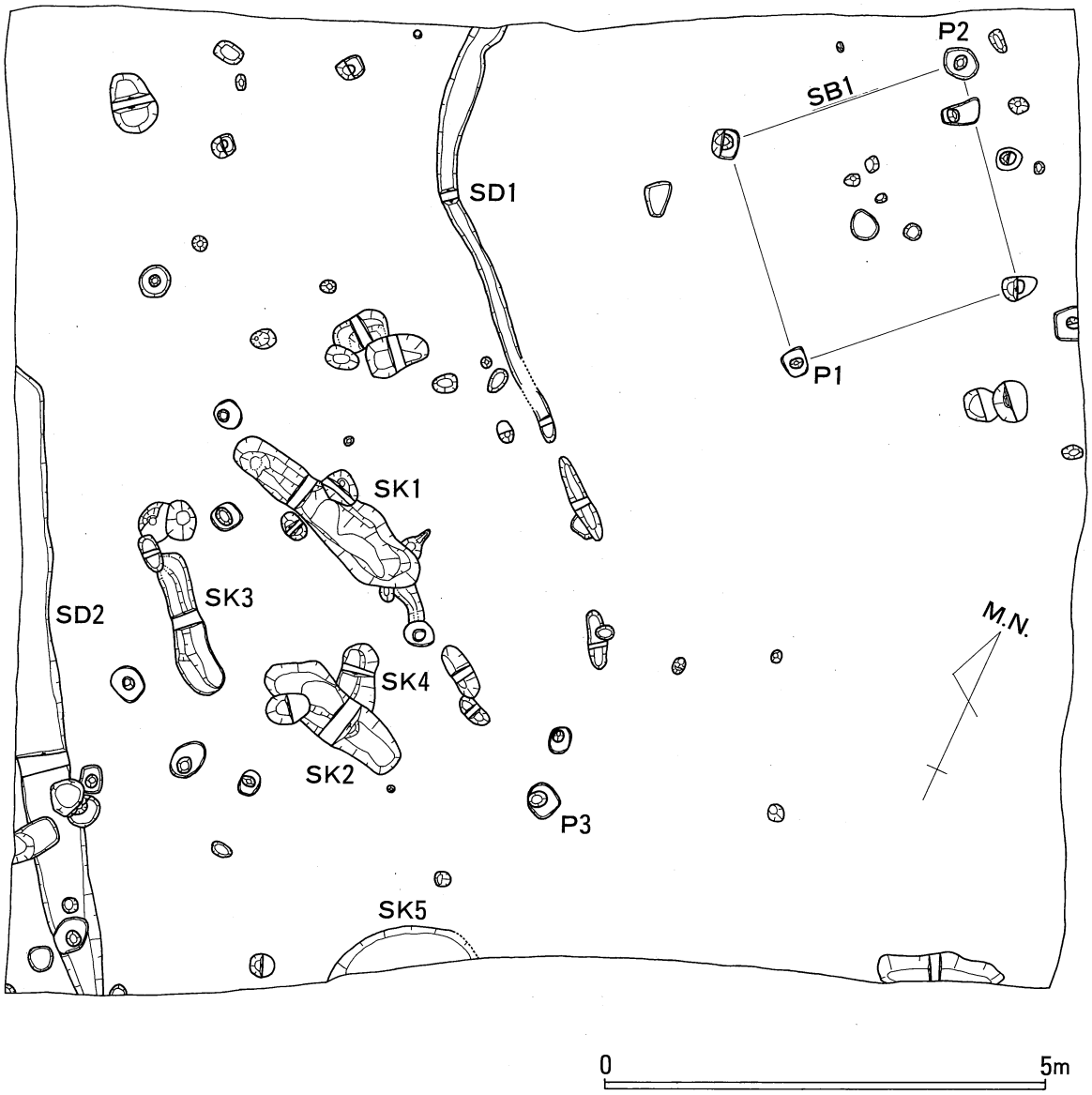
第18図　調 査 区 平 面 図



土層序

1 現代盛土層
2 旧表土層
3 灰色砂質土層
4 茶灰色砂質土層(鉄分多く含む)
5 灰褐色砂質土層
6 淡灰色砂質土層
7 黄灰色粘土層
8 濃灰色粘土層
9 淡黄色粘土層(地山層)
10 黒灰色粘土層
11 淡灰色砂質土層(黄灰色粘土混じる)
12 暗灰褐色粘土層
13 黄灰色粘土層(暗灰褐色粘土混じる)
14 暗灰褐色粘土層
15 濃灰色粘土層(黄灰色粘土混じる)] SD2埋土
16 濃灰色粘土層(やや暗)

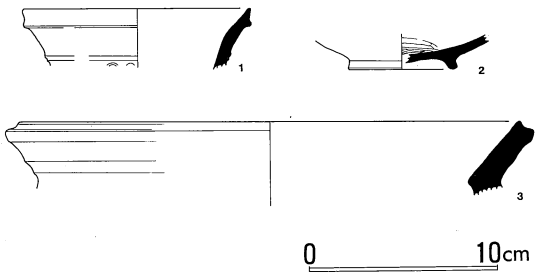
第19図 調査区土層断面図



第20図 遺構平面図

て、溝南半ではN－48°－Wの方位をもってのび、途中で東方向へカーブするＳＤ１と、調査区西端でN－32°－Wの方位をもってのびるＳＤ２を検出した。

土坑については、特徴的なものとして、調査区西側で溝状を呈するものを３基検出した。その長軸の方位は、ＳＫ１とＳＫ２がN－75°－Wを示し、ＳＫ３はN－32°－Wを示していた。



第21図　遺物実測図

（３）遺物

出土遺物には、古墳時代から中世にかけてのものがあるが、細片が多く、図化できるものは少なかった。１は須恵器甕の口縁部（ＳＫ４内）、２は黒色土器Ａ類椀の底部（Ｐ３内）、３は土師器甕の口縁部（遺構面上）となる。この他、図化できなかったが、Ｐ１内からは和泉型の瓦器椀片、ＳＫ５では楠葉型の瓦器椀片が検出され、両者とも内外面にミガキが施されていた。

３．まとめ

今回の発掘調査では、出土遺物は少ないものの、掘立柱建物跡をはじめとして多数の遺構を検出することができた。遺構の時期としては、明確な遺物包含層が認められず、遺構面上で古墳時代から中世の遺物が混在して検出された状況であるので、その把握は難しいが、ＳＢ１を構成するＰ１内からは瓦器片が検出され、他の遺構内からも瓦器片、黒色土器片などが出土していることから、おおむね平安時代末から鎌倉時代前半にかけてのものと考えられる。しかし、遺構によっては、古墳時代の遺物のみが出土しているものあり、検出された遺構については同一時期のものだけではなく、数時期にわたる可能性も考えられる。

図版一　蔵人遺跡

Ｔ１（南から）

Ｔ２（南から）

図版二　吹田城跡推定地

調査地近景（北から）

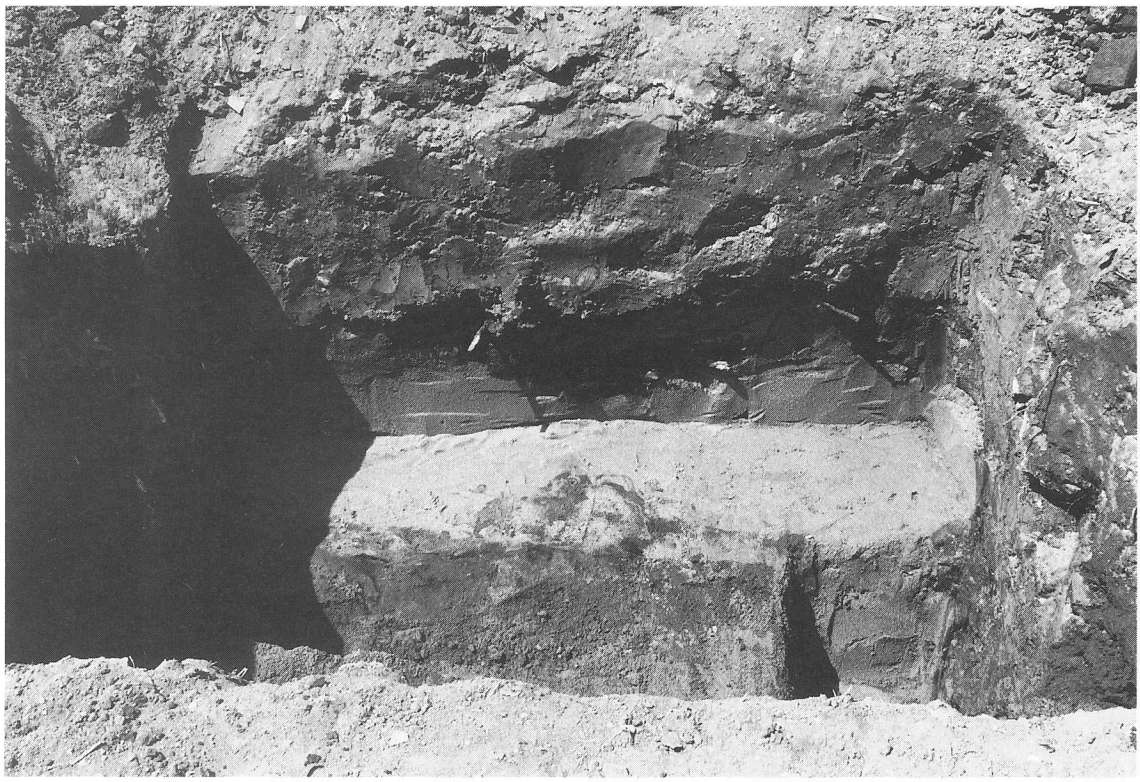
Ｔ１　南　壁

平成７年度調査風景

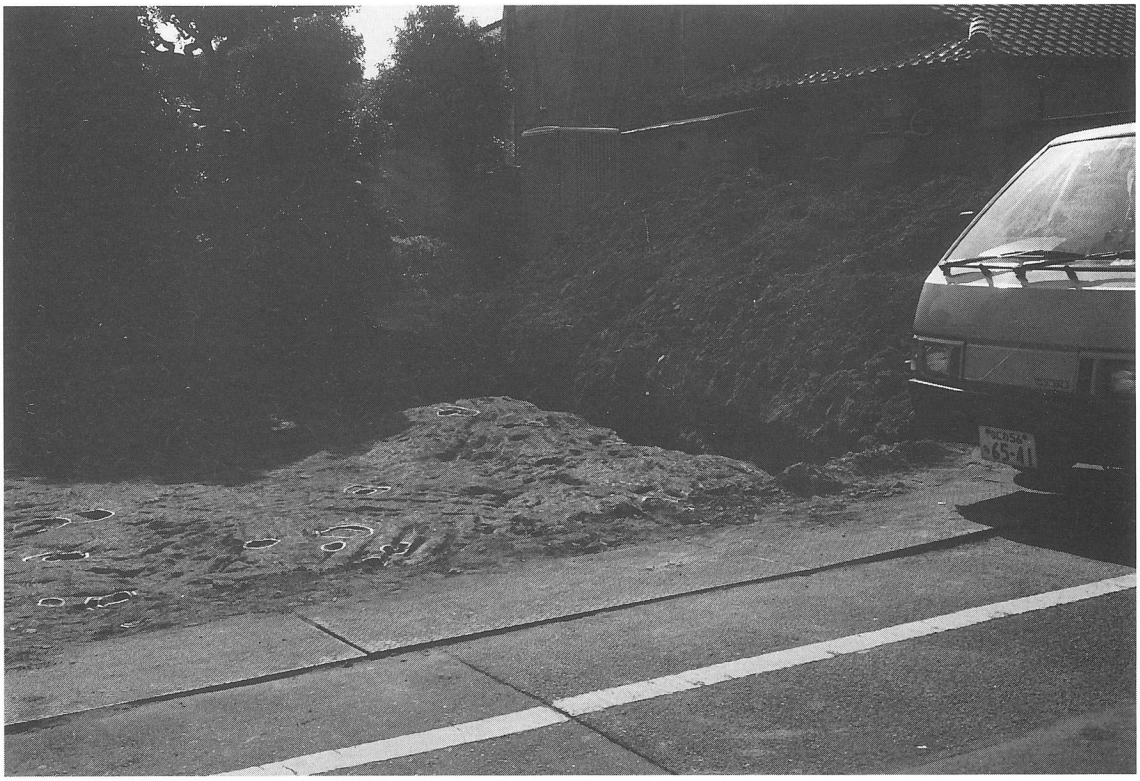
平成８年度調査地近景

図版四　高浜遺跡

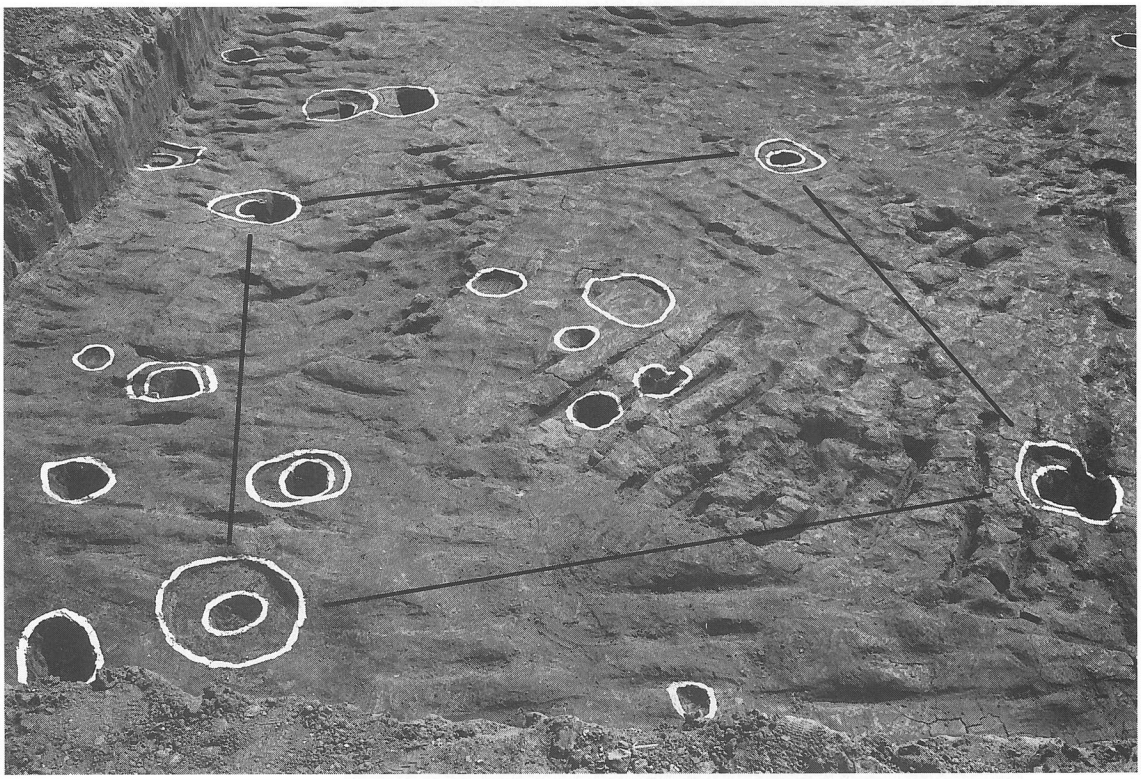
Ｔ１（南から）



Ｔ１ 西 壁

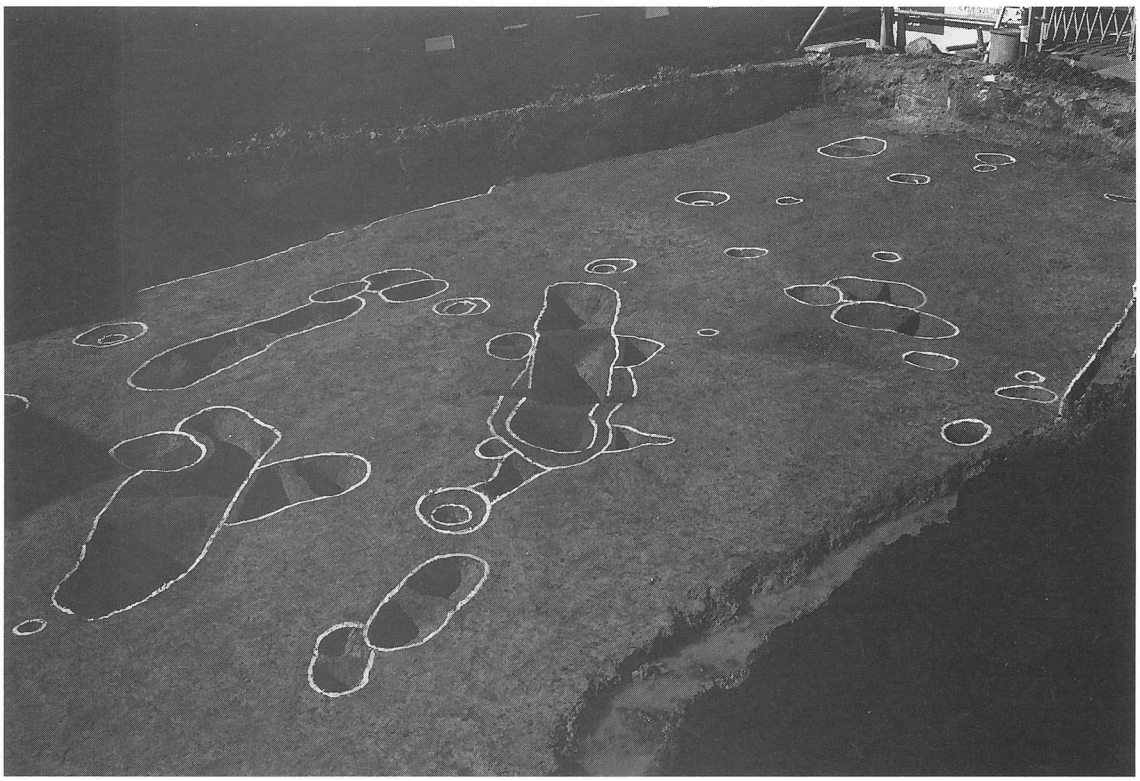


調査地近景（北から）

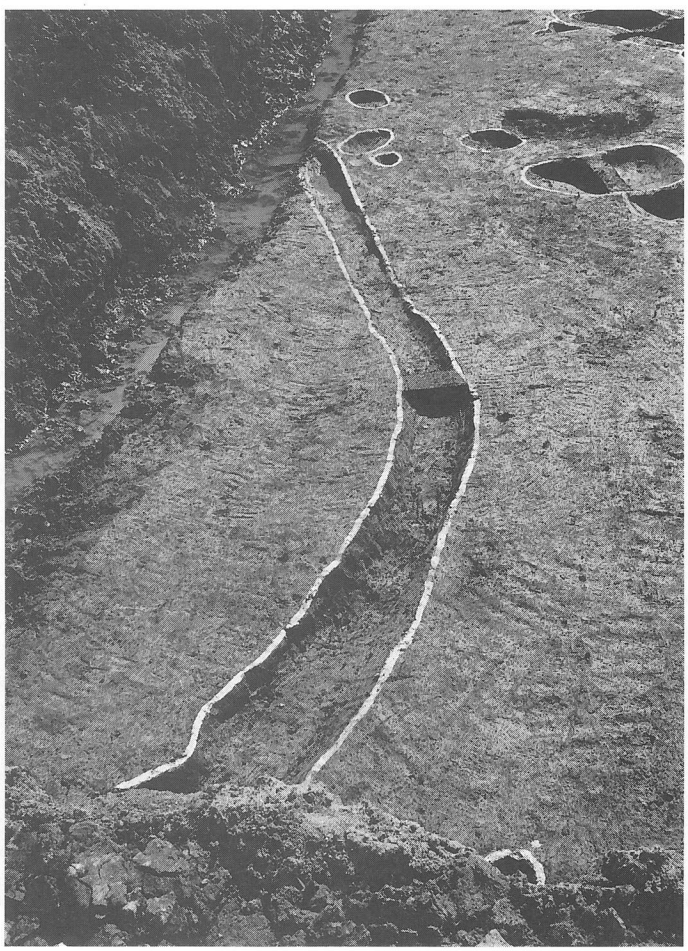


掘立柱建物跡（調査区東半）

図版六　高浜遺跡2



調査区西半（南から）



ＳＤ１（北から）

〔平成８年度〕

埋蔵文化財緊急発掘調査概報

蔵人遺跡
吹田城跡推定地
垂水遺跡
高浜遺跡
高畑遺跡

平成９年３月31日

編集　吹田市泉町１丁目３番40号
発行　吹田市教育委員会